

健やかでやさしい 松前町をつくる

地域福祉の充実

障がい者の自立支援や健常者とのふれあい事業を実施する「松前町障害自立ひまわりの会」に補助を行い、障がい者福祉の増進を図ります。

高齢者支援の充実

要介護高齢者の在宅生活を支援するため、関係機関と連携を図りながら、各種在宅福祉サービスの充実・強化に努めます。

子育て支援の充実

保護者の病気などで一時的に保育が必要な児童を町立保育所で預かり、保護者の負担を軽減します。

次代の社会を担う子どもの成長を支援するため、中学校修了前の子どもを養育している人に、1人につき月額1万3千円の子ども手当を支給します。

- 松前町障害自立ひまわりの会補助金 190 万円
- 高齢者在宅福祉サービス事業 1,472 万 5 千円
- 母子家庭医療費助成事業 2,035 万 3 千円
- 子ども手当給付事業 6 億 831 万 6 千円
- 予防接種事業 4,528 万 1 千円



◎ INTERVIEW_02

松前町障害自立ひまわりの会監事

井上 ナサミさん
Nasami Inoue



平日は毎日、福祉センターで障がい者とボランティアが作業を通じてふれあっています。芽カブの仕分け作業や縫製が中心です。その売り上げで会をやりくりしていますが、今までは運営が苦しく、不安定でした。作業に必要な機材が買えなくて困ることも。本年度から支援していただけるということで、機材を買って作業効率をアップさせたいと思います。みんなのやる気を引き出すことにつながるはず。今までも、編み物や生け花教室など、障がい者と健常者が楽しみながらふれあう活動していますが、これからは、もっと外に出て、より大勢の人とふれあう場をつくりま

安全・安心・快適な 松前町をつくる

消防・防災の充実

自主防災組織や防災士の養成を支援し、災害時における地域の防災力強化をめざします。

環境・景観の保全と創造

地球温暖化の防止を推進する住宅用太陽光発電システムに対する補助を継続します。

また、野生生物や地域の自然環境への愛着を深めるため、ビオトープ（多様な生物が生息する空間）を整備します。

廃棄物処理の充実

新たな廃棄物処理の方向性を示すため、一般廃棄物処理基本計画を策定します。

- | | |
|------------------------|------------|
| ○ 防災事業（防災フェア、防災士の養成ほか） | 765 万 8 千円 |
| ○ 住宅用太陽光発電システム設置費補助事業 | 1,400 万円 |
| ● ビオトープ整備事業 | 244 万 8 千円 |
| ● 一般廃棄物処理基本計画策定事業 | 597 万 4 千円 |
| ● 犬猫不妊去勢手術補助事業 | 23 万円 |
| ● 民間建築物アスベスト含有調査補助事業 | 25 万円 |
- ※◎は新規事業



◎ INTERVIEW_01

鶴吉自主防災会
会長

大政 邦和さん
Kunikazu Omasa



松前町総合防災訓練は、町と地域の連携体制を確認できる大切な事業です。残念なのは後半の講演になると大半が帰ってしまうこと。地域に応じた図上訓練に変えるなど、「参加させられている」ではなく「参加したくなる」訓練へ改善すべきだと思います。訓練のテーマは事前に大字にアンケートをとるなど、普段から地域と連携をとってもらえれば地域の意識も高まると思います。

防災士の養成については、ただ養成するだけではなく、町が各地域での防災士の権限や役割などを、明確に位置付けることも、自主防災組織を育成するために必要なことだと思います。



平成22年度町政方針
水きらめき
笑顔あふれる
ライフタウン・まさぎ
めざして

3月3日（水）に開会した松前町議会第1回定例会の冒頭、白石町長は、平成22年度の町政方針を述べました。
町政方針は、この1年間にどのような施策を行うのか、町の進むべき指針を示すものです。
今月号では、平成22年度の町政方針と予算を、本年度からスタートする第4次松前町総合計画の6つの柱に添って紹介します。

◎皆さんに知ってほしいこと

▶町には、まちをよりよくするためにめざすものがあります。（第4次松前町総合計画）▶それを実現するために、平成22年度に取り組むこと、町の進むべき方向を決めています。（町政方針）▶そのためのお金のやりくりも計画済みです。（当初予算）▶じゃあ、もう決まっているのに、どうしてお知らせするのでしょうか。▶例えば家庭で考えてみましょう。家族旅行のために節約することを、お母さんだけが計画して行動するよりも、お父さん子どもも理解して一緒に行動する方が、節約も上手くいくし、実現した旅行もずっと楽しいですね。▶つまり、町のめざすものも、町民みんなで共通認識を持って、一緒に行動する方がうまくいくんです。まちの主役は皆さんですから。町民の皆さんの幸せと、松前町の将来のため、「みんなで一緒に」知って、行動しましょう。

みんなで力を出し合う 松前町をつくる

コミュニティの育成
老朽化が著しい塩屋集会所を新築します。

協働のまちづくりの推進
新たな総合計画のスタートの年を記念し、町花である「ひまわり」の苗を各戸配布します。各家庭に植えていただいて、夏には町内全域で咲かせて、町内の一体感を高めます。

計画的な自治体経営の推進
利便性や収納率の向上のため、軽自動車税のコンビニ収納サービスを平成 23 年度から開始するための準備をします。

県パスポートセンターの移転に伴い、今年度 8 月 23 日からパスポートの取り扱いを開始します。

○ コミュニティ施設整備事業	311 万 5 千円
● 塩屋集会所整備事業	1,310 万 1 千円
● ひまわり普及事業	38 万 6 千円
● コンビニ収納導入事業	176 万 3 千円
● 旅券発給事業	93 万 9 千円



◎ INTERVIEW_06

松前町まちづくり塾
塾長
重松 茂さん
Shigeru Shigematu

これまで 20 年間、毎年1万本のひまわりの苗を育てて皆さんに配布してきました。本年度は、各家庭に配れるように約3万本を育てます。正直大変でしょうね。うちのビニールハウスの半分は、ひまわりが独占することになりそうです。でも、その苗がまち中で元気な花を咲かせるとしたら、こんなにうれしいことはありません。ひまわりは町花です。町内いっばいに咲くひまわりを見て、来た人に「松前町って素敵だな」と思ってもらえるチャンス。ぜひ、みんなで松前町をアピールしましょう。ひまわりを見るたびに松前町を思い出すような、そんなすてきなまちになることを願っています。

飛躍を支える 松前町の基盤をつくる

住宅施策の推進
具体的な住宅施策、公営住宅の長寿命化などを内容とした計画を策定します。

道路・交通網の充実
町道筒井徳丸線は、伊予松山港線と国道 56 号を結ぶ本町の東西軸の幹線道路として、また、県道八倉松前線を補完する道路として、大きな役割を担うものです。平成 9 年度から行ってきたこの事業は、本年度完成する予定です。供用開始前には開通を記念し、子どもから大人まで参加できるイベントを開催します。

情報化の推進
公有財産の適正な把握と管理のため、町の固定資産を洗い出し、一元管理が行えるシステムを整備します。

● 都市計画図作成事業	983 万 9 千円
● 住生活基本計画・公営住宅長寿命化計画策定事業	908 万 5 千円
○ 町道整備事業	4 億 2,853 万 1 千円
○ 県営事業負担金 (特定道路改良整備事業)	574 万円
● 公有財産管理台帳システム整備事業	1,753 万 5 円



◎ INTERVIEW_05

西古泉
区長
稲田 輝宏さん
Teruhiro Inada

町道筒井徳丸線の完成をきっかけに地域が活性化することを期待しています。その反面、不安もあります。わたし自身、家のすぐ前に道路ができるので騒音やほこりが心配です。また、地域で特に心配しているのは高架下が通学路になることです。近くに民家がなく、子どもの安全面への配慮が必要だと思います。せっかく立派な道路をつくるのですから、地域と行政が一体になって良いものを完成させ、管理できるといいですね。道路のまわりに植樹をするため、西古泉では「誇れる道の会」を立ち上げました。いつもきれいな道路を利用してもらえよう除草作業などに取り組んでいきます。

豊かでにぎわいのある 松前町をつくる

農水産業の振興
農産物に対する安全・安心志向の高まりを受け、学校給食における地元産米の使用を促進し、食の安全と信頼の確保に努めます。また、近年、環境保全型農業の重要性が高まっています。愛媛県が制定している「有機農業推進計画」に基づき、推進体制の整備や振興計画を検討します。

漁業への理解を深めてもらうとともに、漁業従事者の連帯感育成のために実施する「まさきみなと祭り」に補助を行います。

商工業の振興
商工会が実施する事業に補助を行い、商工業の振興と町内産業の活性化を図ります。

○ 食の安全・安心確保事業補助金	313 万 4 千円
● 松前町有機農業推進事業	11 万 9 千円
○ 漁業振興育成対策事業	65 万円
○ 商工振興育成対策事業	579 万 8 千円
○ 工場等設置奨励金	2,000 万円
○ 地産地消促進事業補助金	95 万 8 千円



◎ INTERVIEW_04

うまい米づくり部会
会長
大川 助俊さん
Suketoshi Okawa

昨年 11 月から地元産米の「松前育ち」を学校給食に使用してもらっています。実はこれ、5 年前から要望していたことで念願叶ってうれしいです。部会員は、より安心なものを地元から届けたいと思い、減農薬・減化学肥料で生産したことを示す「エコえひめ」の認証をとっています。でも、わたしたちは宣伝が下手で…。町には宣伝面で支援してもらいたいです。昨年まさき文化祭で松前育ちの試食会をしていただいたように、色々な場で宣伝してもらえたら生産者のやる気や責任感は強くなります。地元の人に知ってもらい、消費してもらって、消費者と生産者が共存できるまちになることを願います。

人と文化が輝く 松前町をつくる

学校教育の充実
今年度も最重要課題として学校施設の耐震化に取り組みます。また、防犯の専門家や警察官 O B をスクールガード・リーダーとして小中学校に派遣し、地域で子どもたちの安全を守る体制を充実します。

生涯学習の推進
まさきふれあい学園の講座内容を充実させ、町民が生涯を通じて学習できる機会を拡充します。

国際化、交流活動の推進
本年度は北海道まつまえ町と姉妹都市提携 20 周年の節目の年です。小学生や商工会関係者がまつまえ町を訪問し、姉妹都市交流の進展を図ります。まさき文化祭には、まつまえ町の子どもを迎えて南国愛媛を楽しんでもらうとともに、記念の年にふさわしい特産品を販売し、町民の皆さんにも楽しんでいただきます。

● 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業	5 万 4 千円
○ 学校管理費・振興費 (教材備品など)	3,600 万 5 千円
○ 学校耐震化事業	3,667 万 1 千円
● 姉妹都市交流事業	421 万 7 千円



◎ INTERVIEW_03

松前町文化協会
会長
満田 泰三さん
Taizo Mitsuda

平成 4 年に当時の小中学生と北海道まつまえ町を訪問しました。子どもたちはまつまえ町を満喫していましたよ。前回の課題は、向こうの文化を紹介してもらえばかりだったこと。松前町をアピールできるものを披露すればよかった。今回は文化的交流をぜひしてきてください。

まさき文化祭の姉妹都市交流物産展では、20 周年ということでマグロの解体販売や実演販売も計画中ですが、どうせやるなら盛大にしたいです。わたしたち文化協会も、この記念の文化祭で今までと違うことをやろうと計画中です。人と文化が輝ける文化祭になると思います。ぜひ大勢の人に来てほしいです。

◎歳出を目的別で分けると…

	民生費 28 億 3,076 万 1 千円 児童・老人福祉や障害者福祉に使われる経費
	総務費 11 億 5,690 万 5 千円 総務管理、税の課税・収納、戸籍・住民基本台帳関係などの経費
	土木費 11 億 2,491 万 1 千円 道路水路、公園整備などに使われる経費
	公債費 10 億 6,204 万 8 千円 町の借金の元利金の返済に係る経費
	衛生費 10 億 5,970 万 7 千円 健康診断などの保健関係、ごみ収集などの環境保全のための経費
	教育費 6 億 9,490 万 2 千円 学校教育や生涯学習、文化振興などに使われる経費
	消防費 4 億 2,721 万 4 千円 伊予消防等事務組合への町の負担金や、災害対策に使われる経費
	農林水産業費 2 億 5,582 万 3 千円 農水産業の振興、土地改良事業などに使われる経費
	議会費 1 億 894 万 1 千円 議員の報酬など、議会の活動・運営のための経費
	商工費 5,218 万 7 千円 商工業の振興などに使われる経費

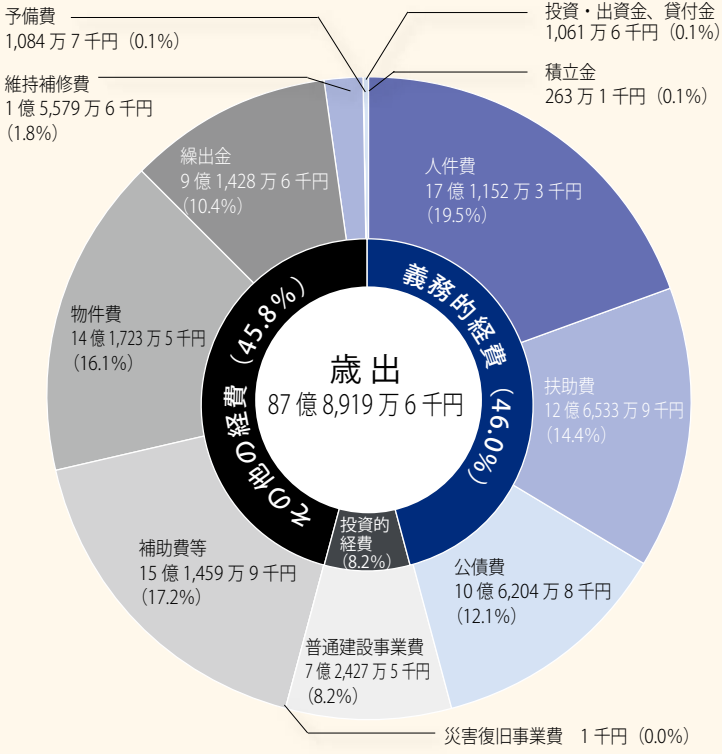
以上のような内容で編成した平成 22 年度一般会計当初予算は

87 億 8,919 万 6 千円

(前年比 5.9% 減)

歳出

歳出は、「義務的経費」と「投資的経費」、「その他の経費」の 3 つに分けられます。「義務的経費」は、町の運営のために必ず支払わなければならない経費のことです。「投資的経費」は、施設や道路などをつくるために使う経費で、生活基盤を整備するものです。

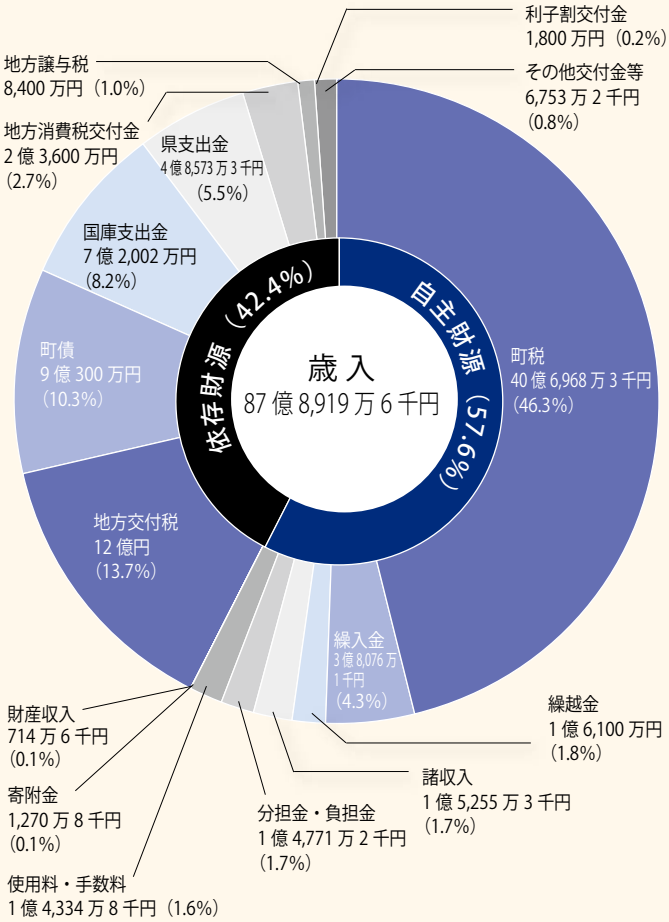


平成 22 年度は、道路新設改良事業などの事業費が大きく減少する一方、社会保障関係経費などが増えることに伴い、扶助費などが増加していますが、前年度に引き続き、町民のニーズに対応したサービスの維持と、健全な財政運営に努めていきます。

平成 22 年度予算規模 (単位：千円、%)			
	平成 22 年度	平成 21 年度	増減率
一般会計	8,789,196	9,337,882	△ 5.9
国民健康保険特別会計	3,206,508	3,264,229	△ 1.8
老人保健特別会計	800	13,000	△ 93.8
後期高齢者医療特別会計	341,093	332,957	2.4
介護保険特別会計	2,246,918	2,236,463	0.5
公共下水道事業特別会計	682,329	823,928	△ 17.2
特別会計 合計	6,477,648	6,670,577	△ 2.9
水道事業会計 (企業会計)	1,052,946	746,937	41.0
特別会計+水道事業会計	7,530,594	7,417,514	1.5
総 額	16,319,790	16,755,396	△ 2.6

歳入

歳入は、「自主財源」と「依存財源」の 2 つに分けられます。「自主財源」は、町税をはじめ、町が自主的に収入できるお金です。「依存財源」は、国や県から交付されるお金や借金をいいます。自主財源が多いほど安定し、町の独自性を保つことができます。



平成 22 年度は、町税が減少すると見込んでいます。固定資産税の一般家屋の建築による「家屋分」の増収が見込まれていますが、景気後退の影響から、町民税は大幅な減収になる見込みだからです。地方交付税は昨年度並みの額を計上しています。

また、子ども手当の創設により、国庫支出金が増加しています。町債は、普通建設事業費が減ったことにより大幅に減少しています。

予算

予算とは、1 年間に見込める収入（歳入）と、何にいくら使うのか（歳出）をいいます。例えば、『1 か月の給料で、食費にはいくらあてて、貯金はいくらする』など、皆さんがお金の使いみちについて計画を立てることと同じです。また、必要であればお財布（会計）を別にしてお金を管理することもあると思います。町には全部で 3 つのお財布があります（一般会計、特別会計、企業会計）。その中の一つ、基本的な会計である「一般会計」について説明します。

◎用語解説◎	
一般会計	町の運営の基本的な経費を一つにまとめた会計
特別会計	一般会計と区別して経理する必要がある会計
企業会計	民間企業のように利用料金などの収益で運営している会計
町税	皆さんが納める税金や会社の法人税など
繰入金	貯金である基金などから一般会計へ繰り入れるお金
諸収入	預金利子や町が融資した貸付金の返済金など
国庫支出金	事業を行うための国からの負担金・補助金など
県支出金	事業を行うための県からの負担金・補助金など
町債	事業を行うために借りるお金
人件費	職員の給与や議会議員の報酬など法令などに基づいて被扶助者に支給される経費
扶助費	事業を行うために借りたお金の償還金
公債費	消耗品、臨時職員賃金や業務委託料など
物件費	一般会計から特別会計などへ繰り出すお金
繰出金	一般会計から特別会計などへ繰り出すお金
積立金	貯金である基金へ積み立てるお金